

OLYMPUS

2020年3月期 第1四半期 連結決算概況と通期見通し

2019年8月2日
オリンパス株式会社
執行役 CFO
境 康

免責事項

- 本資料のうち、業績見通し等は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

第1四半期連結実績

- 通期見通しに沿って推移し、増収増益
- 販管費の効率化が順調に進捗し、販管費率55.6%(前年同期比2.6pt改善)

通期業績見通し

- 期初計画から見通しに変更無し

- 2020年3月期 第1四半期決算における主なポイント
- 第1四半期の連結実績は通期見通しに沿って推移、前年同期比で増収増益
- 販管費は全社で効率化に取り組んでいる成果が着実に出ており、前年同期比で2.6ポイント改善し、販管費率は55.6%
- 通期業績見通しは第1四半期の実績が順調に進捗していることから、5月10日に公表した期初計画に変更なし

2020年3月期 第1四半期 連結業績および事業概況

2020年3月期 第1四半期実績 ①連結業績概況

- ① 内視鏡事業・治療機器事業・科学事業が堅調に推移し、増収
 ② 前年同期の一時費用の減少および販管費の効率化により、全利益項目において大幅な改善

1Q実績(4-6月)

(単位：億円)	2019年3月期	2020年3月期	前年同期比	為替影響調整後
売上高	1,806	1,819	+1%	+3%
売上総利益 (売上総利益率)	1,183 (65.5%)	1,167 (64.2%)	▲1%	0%
販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)	1,050 (58.2%)	1,011 (55.6%)	▲4%	▲2%
その他の収益および費用等	▲250	▲9	-	-
営業利益 (営業利益率)	▲116 (-)	147 (8.1%)	-	-
税引前利益 (税引前利益率)	▲147 (-)	136 (7.5%)	-	-
親会社の所有者に帰属する当期利益 (親会社の所有者に帰属する当期利益率)	▲167 (-)	86 (4.7%)	-	-
EPS	▲12円	6円		
円/USD	109円	110円		
円/Euro	130円	123円		
円/CNY	17円	16円		

5 2019/8/2 No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

- 連結業績の概況について
- 売上高は内視鏡事業・治療機器事業・科学事業が堅調に推移、前年同期比で1%増収の1,819億円
- 粗利率はプロダクトミックスの変化の影響等により、前年同期比1.3pt減少しているが、通期見通しに対してはインラインで進捗
- 営業利益は前年同期の一時費用の減少および販管費の効率化により大幅に改善し、147億円
- 一時費用、つまりその他の収益および費用を除いたベースでも前年同期を上回る利益水準
- 当期利益は営業利益が大幅に改善した結果、86億円
- 全利益項目で大幅な増益となり、第1四半期として好調な滑り出し

2020年3月期 第1四半期実績 ②販管費効率化の進捗

	2018年3月期 (1Q実績)	2019年3月期 (1Q実績)	2020年3月期 (1Q実績)	前年同期比
販管費	995億円	1,050億円	1,011億円	▲4%
販管費率	57.9%	58.2%	55.6%	▲2.6pt

Transform Olympusのコスト効率化施策に沿って順調に進捗

OLYMPUS

6 2019/8/2 No data copy / No data transfer permitted

- 販管費効率化の進捗について
- 第1四半期の販管費は前年同期比4%減の1,011億円、販管費率は2.6ポイント改善の55.6%
- Transform Olympusのコスト効率化施策に沿って、順調に進捗
- 現在検討中の長期的な収益性改善施策に向けて従業員一人一人のコスト意識の向上が表れたものであり、引き続き全社一丸となって通期見通しの達成に取り組む

2020年3月期 第1四半期実績 ③セグメント別概況

■ 今期より、医療事業を2事業部門体制（内視鏡事業・治療機器事業）に再編し、運営

内視鏡事業 Endoscopic Solutions Division	治療機器事業 Therapeutic Solutions Division
 <p>消化器科キャピタル製品</p> <p>呼吸器科キャピタル製品</p> <p>IT</p> <p>外科内視鏡キャピタル製品</p> <p>手術用顕微鏡システム</p> <p>システムインテグレーション</p> <p>修理サービス</p>	 <p>消化器科呼吸器科関連処置器具</p> <p>エネルギー・デバイス、 その他外科用シングルユース製品</p> <p>泌尿器科、婦人科製品</p> <p>耳鼻咽喉科製品</p>

7 2019/8/2 No data copy / No data transfer permitted

*旧医療事業はAppendix (P.21) および決算参考資料に参考値として開示しております

OLYMPUS

- 今期より医療事業を2事業部門体制に再編し、運営
- 決算内容も医療事業を内視鏡事業と治療機器事業に分けて説明を行う
- 比較分析のため、前年の第1四半期および通期の数値も2事業に分けて開示
- これまで開示していた従来の医療事業セグメントの数値データは、本プレゼン資料のAppendixおよび決算参考資料に掲載

2020年3月期 第1四半期実績 ③セグメント別概況

- ① 内視鏡： 保守サービスを含む消化器内視鏡および外科内視鏡の売上が堅調に推移し、全社業績を牽引
- ② 科学： 生物顕微鏡、産業製品ともに高い売上成長を実現し、1Q実績として過去最高の営業利益
- ③ 映像： ミラーレス一眼の販売減により減収も、今期は構造改革費用の計上は無いため損益は改善

1Q実績 (4-6月)

(単位：億円)		2019年3月期	2020年3月期	前年同期比	為替影響調整後
内視鏡	売上高	929	954	+3%	+5%
	営業利益	215	219	+2%	+4%
治療機器	売上高	510	521	+2%	+5%
	営業利益	59	57	▲3%	▲1%
科学	売上高	211	226	+7%	+9%
	営業利益	▲4	16	+20億円	+19億円
映像	売上高	139	102	▲27%	▲25%
	営業損益	▲58	▲23	+34億円	+37億円
その他	売上高	17	16	▲2%	▲2%
	営業損益	▲7	▲6	0億円	0億円
全社・消去	営業損益	▲322	▲115	+207億円	+207億円
連結合計	売上高	1,806	1,819	+1%	+3%
	営業利益	▲116	147	+264億円	+271億円

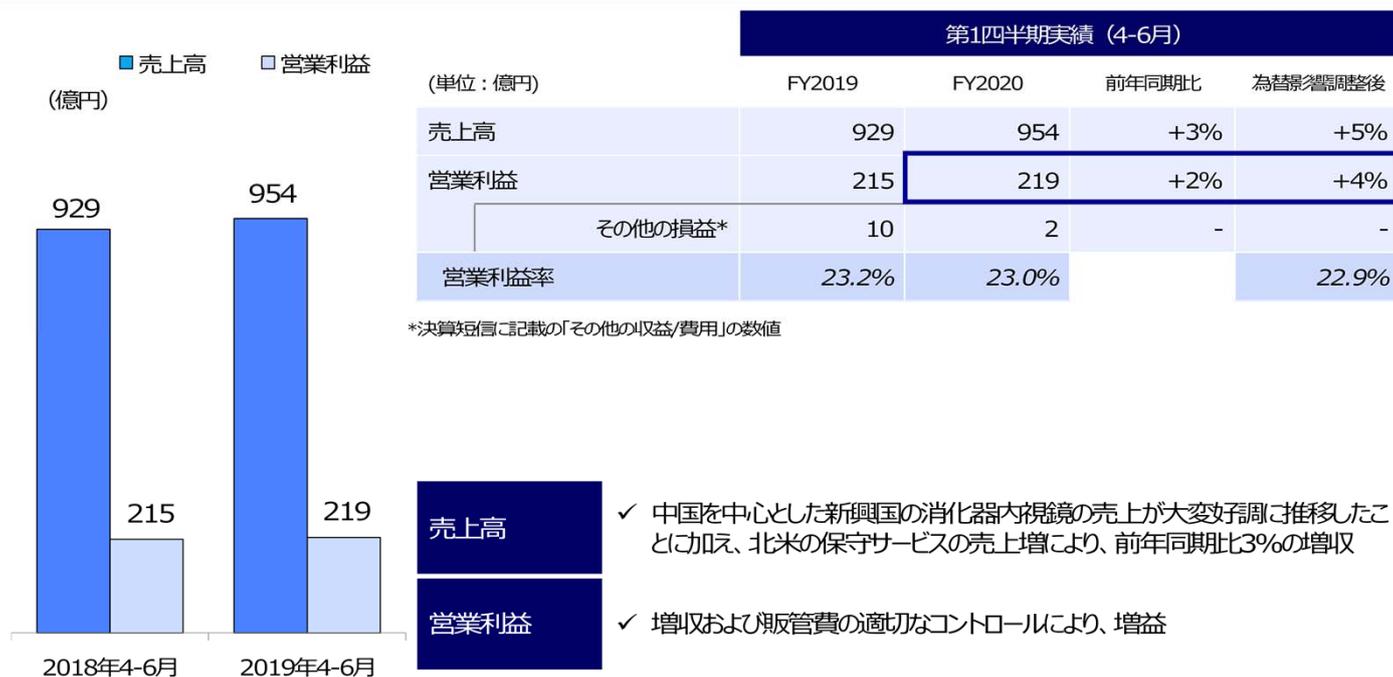
OLYMPUS

8 2019/8/2 No data copy / No data transfer permitted

*旧医療事業はAppendix (P.21) および決算参考資料に参考値として開示しております

- セグメント別の概況について
- 内視鏡事業は消化器内視鏡および外科内視鏡の売上が保守サービスを含めて堅調に推移、全社業績を牽引し、増収増益
- 科学事業は生物顕微鏡、産業製品ともに高い売上成長を実現、第1四半期実績として過去最高の営業利益を計上
- 映像事業はミラーレス一眼の販売減により減収したが、今期は構造改革費用の計上は無いため損失は縮小
- 全社・消去は昨年計上していた一時費用がなくなったことにより、前年同期比で大幅に損益が改善

2020年3月期 第1四半期実績 ④内視鏡事業



9 2019/8/2 No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

●内視鏡事業について

●売上高：前年同期比3%増の954億円

●中国を中心とした新興国の消化器内視鏡の売上が大変好調に推移したことに加え、北米の保守サービスの売上が増加

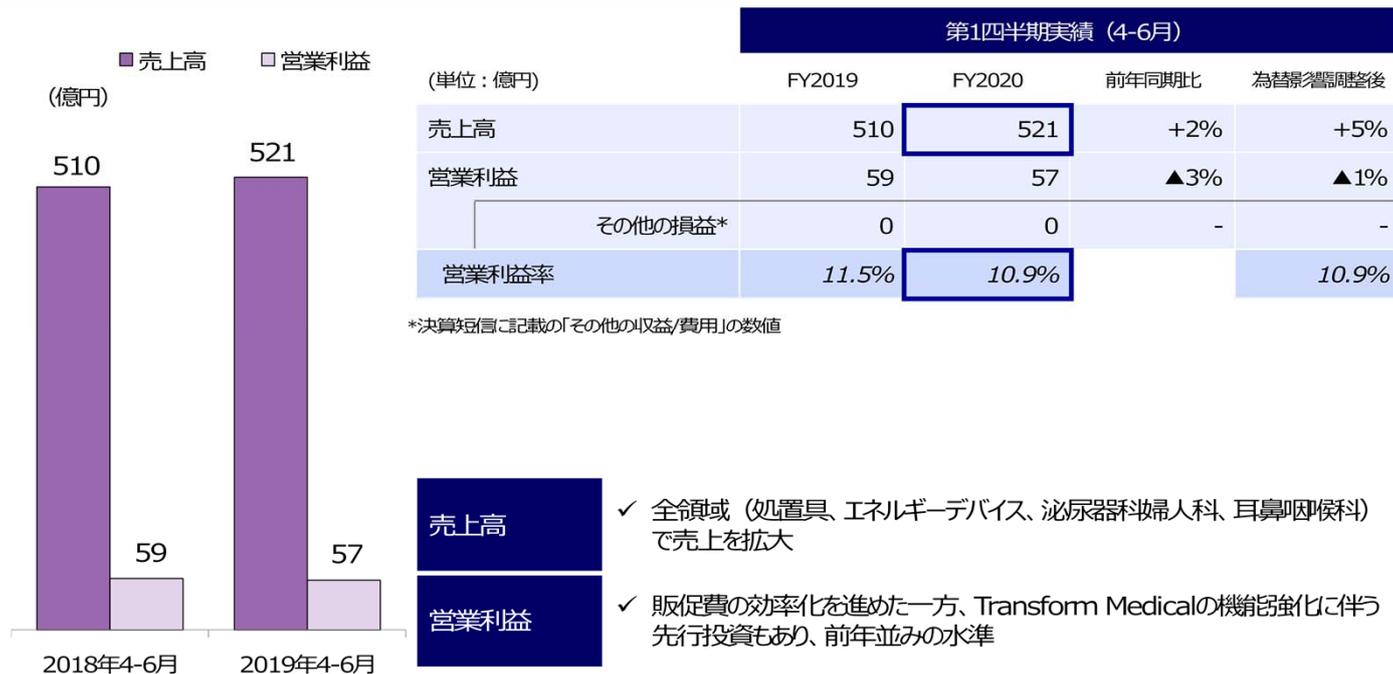
●営業利益：前年同期比2%増の219億円

●営業利益率：23%

●増収および販管費の適切なコントロールによるもの

●高い成長ポテンシャルを持つ中国市場の戦略的な位置づけは年々高まっており、売上規模も拡大し続けていることを受け、今回の決算から参考資料にて人民元の為替前提および中国の売上高や成長率を個別に開示

2020年3月期 第1四半期実績 ④治療機器事業



10 2019/8/2 No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

●治療機器事業について

●売上高：前年同期比2%増の521億円

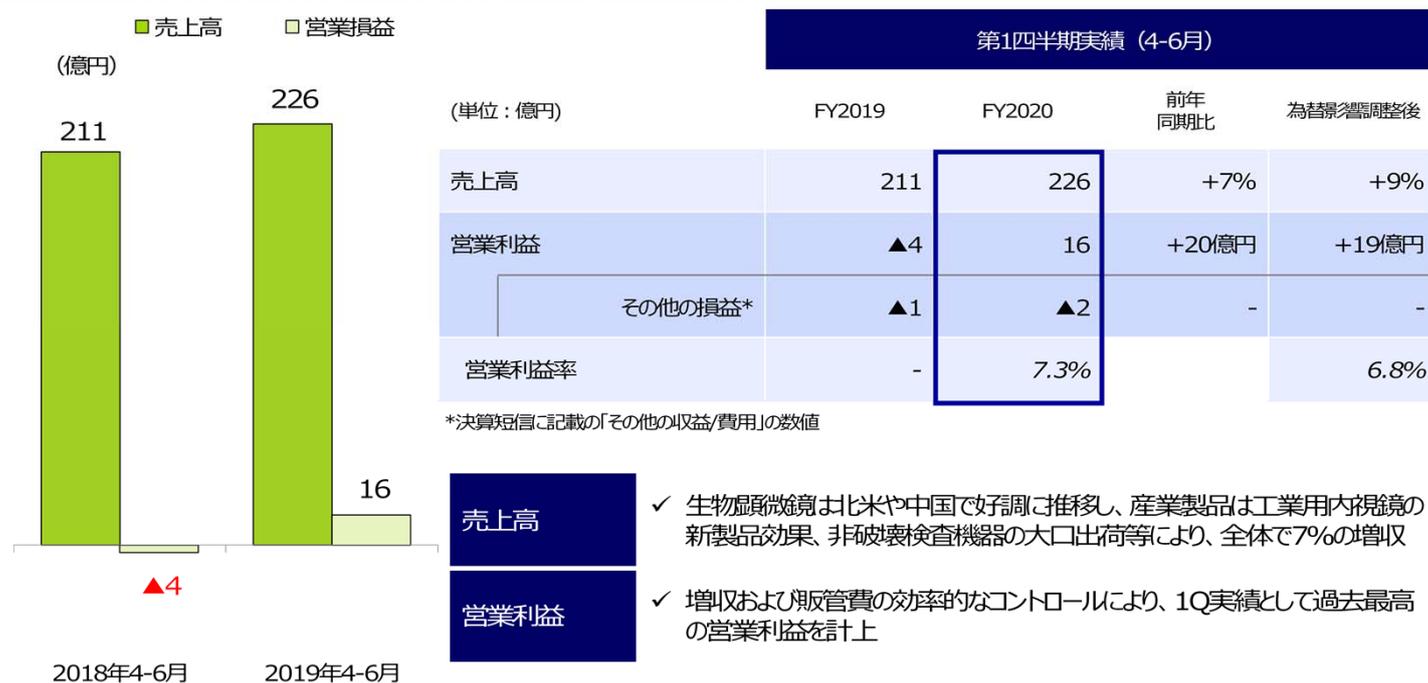
●全領域において成長を続けている

●営業利益：前年同期比3%減の57億円

●営業利益率：10.9%

●販促費の効率化を進めた一方、Transform Medicalの機能強化に伴う先行投資もあり、前年並みの水準

2020年3月期 第1四半期実績 ④科学事業



11 2019/8/2 No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

●科学事業について

●売上高：前年同期比7%増の226億円

●営業利益：16億円

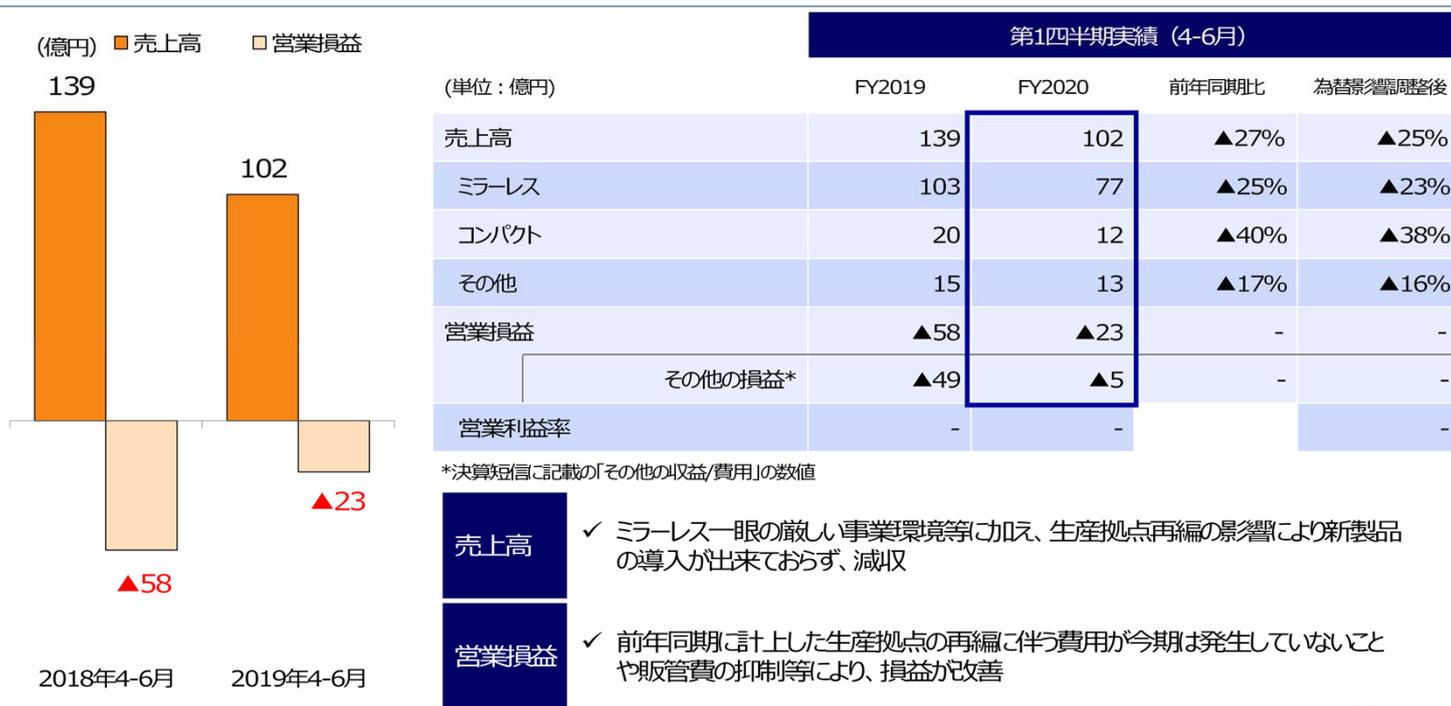
●前年同期の損失計上から黒字転換を実現

●生物顕微鏡は北米や中国で好調に推移

●産業製品は工業用内視鏡の新製品効果、非破壊検査機器の大口出荷等により増収

●増収および販管費の効率的なコントロールにより、第1四半期実績として過去最高の営業利益を計上

2020年3月期 第1四半期実績 ④映像事業



12 2019/8/2 No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

●映像事業について

●売上高：前年同期比27%減の102億円

●営業損益：23億円の営業損失

●ミラーレス一眼の厳しい事業環境等に加え、生産拠点再編の影響により新製品の導入が出来ておらず減収

●前年同期に計上した生産拠点の再編に伴う費用約50億円が今期は発生していないこと、販管費の抑制等により今期は損益が改善

●今期前半は厳しい状況が続くが、下半期より複数の戦略製品を投入し引き続き販管費を適切にコントロールすることで、下期にブレークイーブンの達成を目指す

財政状態計算書

- 国際会計基準の新リース基準を適用した影響により、有形固定資産が増加
- 剰余金の配当および円高の影響等により資本が減少し、自己資本比率は45.8%
- 期末に向けて資産の効率化を図り、財務体質を強化

(単位：億円)	2019年 3月末	2019年 6月末	増減額		2019年 3月末	2019年 6月末	増減額
流動資産	4,560	4,419	▲141	流動負債	2,875	2,857	▲18
棚卸資産	1,536	1,624	+88	社債及び借入金	597	608	+11
非流動資産	4,760	4,964	+204	非流動負債	2,021	2,214	+193
有形固定資産	1,769	2,059	+290	社債及び借入金	1,216	1,207	▲9
無形資産・その他	1,979	1,925	▲54	資本	4,424	4,312	▲112
のれん	1,012	980	▲32	自己資本比率	47.3%	45.8%	▲1.5pt
資産合計	9,320	9,383	+63	負債及び資本合計	9,320	9,383	+63
					有利子負債：1,815億円（2019年3月末比+2億円）		

● 財政状態について

- 資産は国際会計基準の新リース基準を適用した影響により、有形固定資産が増加
- 棚卸資産が88億円増加したが、主に第2四半期以降の出荷に向けた在庫を構築している影響によるもの
- 資本は剰余金の配当に加え、円高の影響を受けて為替換算調整勘定が88億円マイナスに影響したこと等により、前期末から112億円減少し、4,312億円
- 自己資本比率は前期末比で1.5ポイント減少し、45.8%
- 期末に向けて資産の効率化を図り、財務体質の強化を図る

連結キャッシュフロー計算書

- デモ・ローナー品等の有形固定資産取得による支出があったものの、医療分野を中心に利益を創出し、フリーキャッシュフローは129億円のプラス

(単位：億円)	第1四半期実績		増減
	2019年3月期	2020年3月期	
売上高	1,806	1,819	+13
営業損益	▲116	147	+264
営業利益率	-	8.1%	-
営業キャッシュフロー	250	284	+34
投資キャッシュフロー	▲174	▲155	+19
フリーキャッシュフロー	77	129	+52
財務キャッシュフロー	▲91	▲113	▲22
現金及び現金同等物期末残高	1,899	1,137	▲762
減価償却費	143	174	+31
資本的支出	162	146	▲16

14 2019/8/2 No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

- キャッシュフローの状況について
- 営業キャッシュフロー：医療分野を中心とした事業利益により、284億円
- 投資キャッシュフロー：医療分野のデモ・ローナー品等の有形固定資産取得による支出等により、155億円のマイナス
- フリーキャッシュフロー：129億円のプラス

2020年3月期 通期業績見通し

通期見通し ①連結業績

■ 通期見通しは前回公表から変更なし

(単位：億円)	2019年3月期 通期実績	2020年3月期 (最新見通し)	前年比	為替影響 調整後
売上高	7,939	8,000	+1%	+5%
売上総利益 (売上総利益率)	5,096 (64.2%)	5,080 (63.5%)	0%	+5% (64.2%)
販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)	4,375 (55.1%)	4,140 (51.8%)	▲5%	▲3% (51.3%)
その他の収益および費用等	▲438	▲40	-	-
営業利益 (営業利益率)	283 (3.6%)	900 (11.3%)	+218%	+269% (12.5%)
税引前利益 (税引前利益率)	201 (2.5%)	860 (10.8%)		
親会社の所有者に帰属する当期利益 (親会社の所有者に帰属する当期利益率)	81 (1.0%)	630 (7.9%)		
EPS	6円	46円		
円/USD	111円	106円		
円/Euro	128円	121円		
円/CNY	17円	16円		

2020年3月期配当
年間配当10円を予定
(変更なし)

OLYMPUS

16 2019/8/2 No data copy / No data transfer permitted

- 2020年3月期の見通しについて
- 第1四半期の業績が計画に沿って順調に進捗したことを受け、5月に公表した数値から変更なし
- 為替レートは第1四半期の実績を反映し、通期で1ドル106円、1ユーロ121円を想定
- 配当は期初の配当予想を据え置き、2020年3月期、年間配当として引き続き1株当たり2.5円増配の10円を予定

通期見通し ②セグメント別業績

■ 全事業で見通しに沿って進捗しているため、前回公表値を据え置き

(単位：億円)		2019年3月期 通期実績	2020年3月期 最新見通し	前年比	為替影響調整後
内視鏡	売上高	4,188	4,200	0%	+4%
	営業利益	898	1,050	+17%	+27%
治療機器	売上高	2,155	2,170	+1%	+5%
	営業利益	222	300	+35%	+50%
科学	売上高	1,042	1,060	+2%	+6%
	営業利益	81	90	+11%	+34%
映像	売上高	487	500	+3%	+7%
	営業利益	▲183	▲70	+113億円	+116億円
その他	売上高	67	70	+5%	+5%
	営業利益	▲35	▲40	▲5億円	▲5億円
全社・消去	営業利益	▲700	▲430	+270億円	+264億円
合計	売上高	7,939	8,000	+1%	+5%
	営業利益	283	900	+218%	+269%

OLYMPUS

17 2019/8/2 No data copy / No data transfer permitted

- セグメント別の業績見通しについて
- 各事業セグメントの売上高、営業利益も全事業で見通しに沿って進捗しているため、前回公表値から変更なし

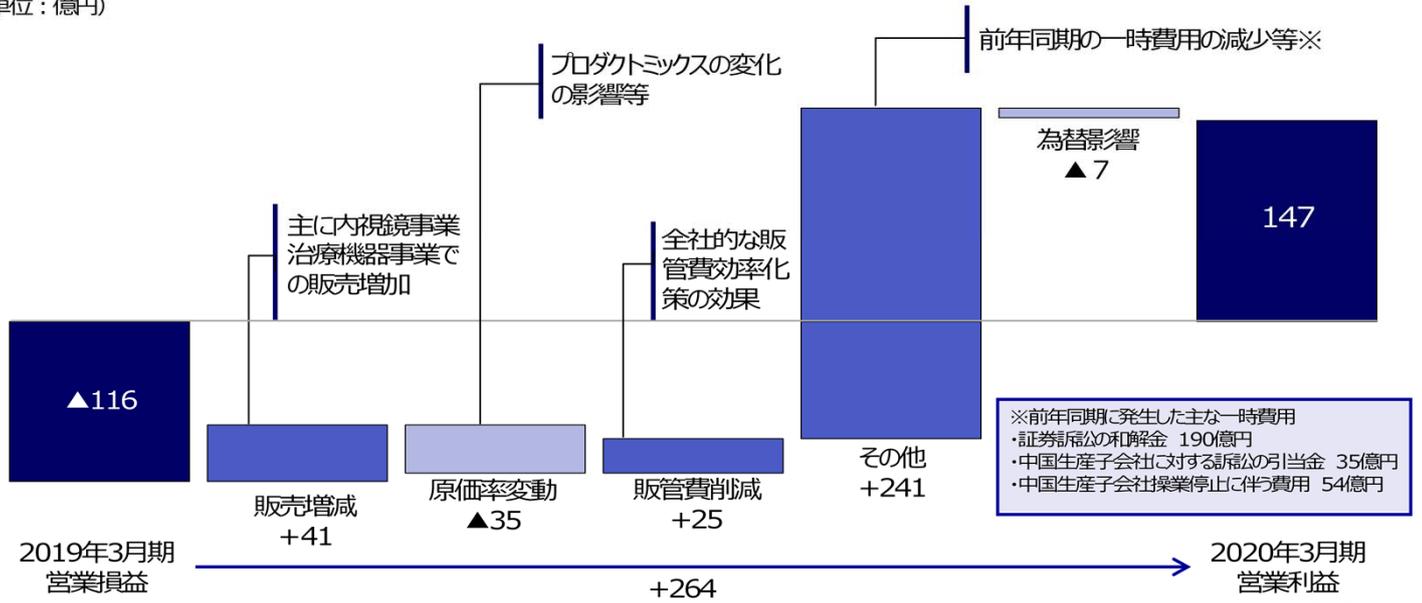
OLYMPUS

Appendix

【参考資料】2020年3月期 第1四半期実績 ①連結営業損益増減要因

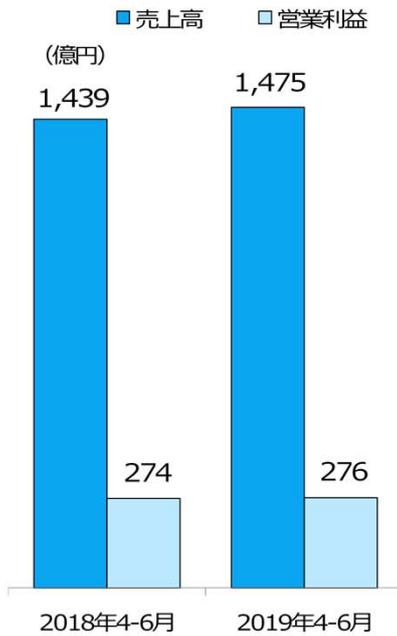
第1四半期実績 (4-6月)

(単位：億円)



【参考資料】2020年3月期 第1四半期実績 医療事業

第1四半期実績（4-6月）



(単位：億円)

	FY2019	FY2020	前年同期比	為替影響調整後
売上高	1,439	1,475	+2%	+5%
内視鏡	763	780	+2%	+5%
外科	474	484	+2%	+4%
処置具	202	210	+4%	+7%
営業利益	274	276	+1%	+3%
その他の損益	10	1	-	-
営業利益率	19.0%	18.7%		18.7%

売上高

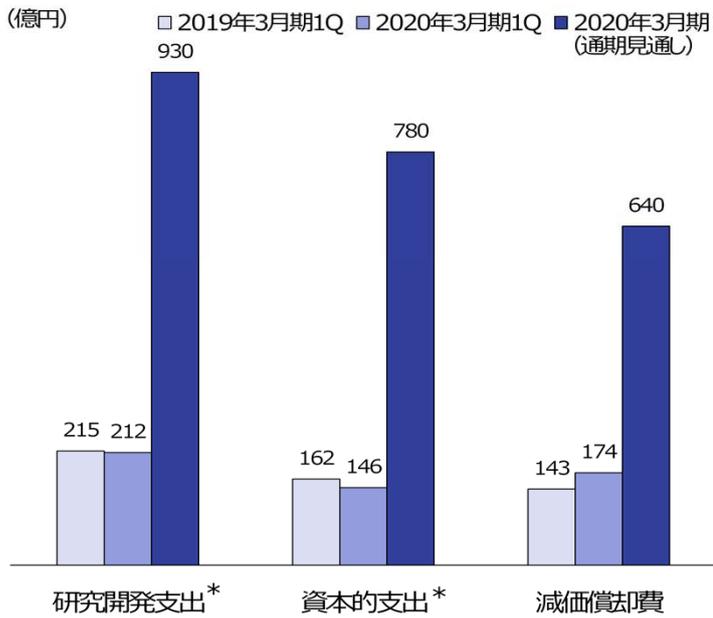
✓ 中国を中心とした新興国市場が好調に推移し、売上増を牽引

営業利益

✓ 内視鏡分野の増収および販管費の効率化により、増益

【参考資料】投資等

1Q実績および通期見通し



(単位：億円)

	FY2019		FY2020	
	1Q	1Q	1Q	通期見通し
研究開発支出* (a)	215	212	212	930
開発費資産化 (b)	24	33	33	230
損益計算書上における 研究開発費 (a-b)	191	179	179	700

(単位：億円)

	FY2019		FY2020	
	1Q	1Q	1Q	1Q
償却費	17	17	17	17
開発資産残高	333	348	333	348

2019年3月末 2019年6月末

(*) 研究開発支出および資本的支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています